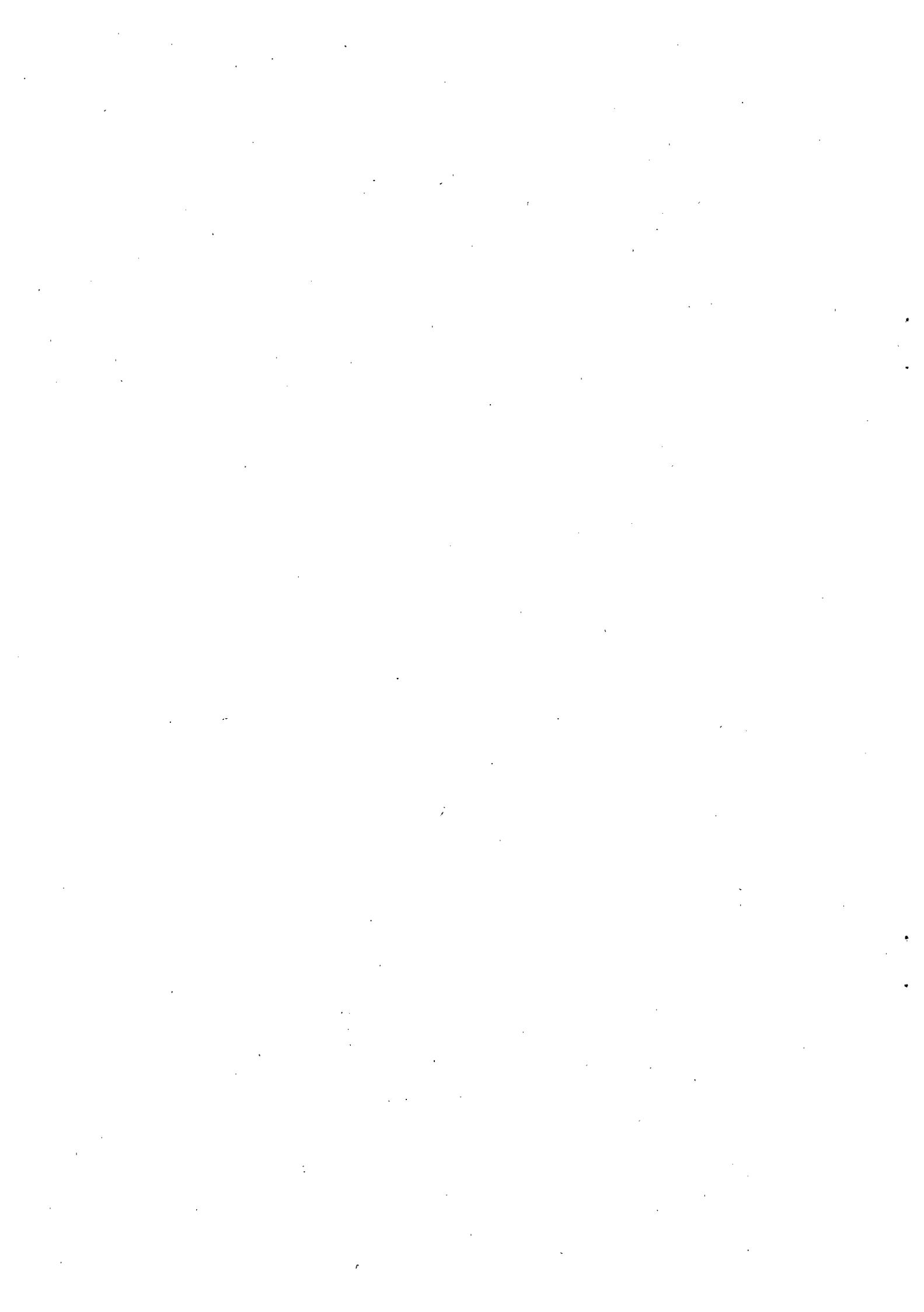


資料 3

第1回策定委員会の会議録及び終了後の意見



会議録

審議会等の 名称	第1回山口市教育振興基本計画策定委員会																	
開催日時	平成29年7月18日(火) 13:30~15:30																	
開催場所	山口市役所別館1階第1会議室																	
公開・部分公 開の区分	公開																	
出席者	村上委員長、川野副委員長、ウィルソン委員、岡本委員、小野委員、川久保委員、藏重委員、砂井委員、田澤委員、田原委員、中村委員、藤井委員、藤川委員																	
欠席者	なし																	
事務局	中谷教育部長、磯部教育部次長、原田教育総務課長、江山学校教育課長、井上社会教育課長、石川教育総務課主幹、岡本教育総務課副主幹																	
付議案件	<p>議事</p> <p>(1) 次期山口市教育振興基本計画策定方針について</p> <p>(2) 現在の山口市教育振興基本計画の進捗状況について</p> <p>(3) 計画の構成について</p>																	
内容(委員発言 部分のみ)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">村上委員長</td> <td>それでは議事の(1)次期山口市教育振興基本計画策定方針について事務局から説明をお願いします。</td> </tr> <tr> <td>原田教育総務課長</td> <td>(1) 説明</td> </tr> <tr> <td>村上委員長</td> <td>今の説明について、皆様から質問や意見があればお願いします。</td> </tr> <tr> <td>田原委員</td> <td>今後、委員会の検討の中に盛り込んでもらえると思うのですが、医学的に言いますと大脳の成人の重さの8割に3歳までに達するので、三つ子の魂100までという格言も科学的に証明されています。就学前を計画範囲としてやっていかないと小学校からでは遅いと考えます。グローバリゼーションを考えると適切なタイミングで正しい知識を提供することが必要となります。対象範囲を幼児教育の部分まで広げていただきたいと思います。</td> </tr> <tr> <td>藏重委員</td> <td>策定委員会の提言を受けて教育委員会で決定するとなっているが、毎回でなくとも教育委員が本委員会と一緒に出席してもらったほうが意見をわかつてもらいやすいのではないか。</td> </tr> <tr> <td>中谷教育部長</td> <td>基本的には教育委員会で最終的に決定するうえでは、この委員会の意見に加えて議員や他の団体の意見を頂くなどして、集約して最終的に決定していく手続きになります。</td> </tr> <tr> <td>田原委員</td> <td>今日の資料を見ますと、計画策定までのスピード感が足りないと考えます。</td> </tr> <tr> <td>村上委員長</td> <td>そのあたりは事務局も参考にして進めるようにしてください。</td> </tr> </table>		村上委員長	それでは議事の(1)次期山口市教育振興基本計画策定方針について事務局から説明をお願いします。	原田教育総務課長	(1) 説明	村上委員長	今の説明について、皆様から質問や意見があればお願いします。	田原委員	今後、委員会の検討の中に盛り込んでもらえると思うのですが、医学的に言いますと大脳の成人の重さの8割に3歳までに達するので、三つ子の魂100までという格言も科学的に証明されています。就学前を計画範囲としてやっていかないと小学校からでは遅いと考えます。グローバリゼーションを考えると適切なタイミングで正しい知識を提供することが必要となります。対象範囲を幼児教育の部分まで広げていただきたいと思います。	藏重委員	策定委員会の提言を受けて教育委員会で決定するとなっているが、毎回でなくとも教育委員が本委員会と一緒に出席してもらったほうが意見をわかつてもらいやすいのではないか。	中谷教育部長	基本的には教育委員会で最終的に決定するうえでは、この委員会の意見に加えて議員や他の団体の意見を頂くなどして、集約して最終的に決定していく手続きになります。	田原委員	今日の資料を見ますと、計画策定までのスピード感が足りないと考えます。	村上委員長	そのあたりは事務局も参考にして進めるようにしてください。
村上委員長	それでは議事の(1)次期山口市教育振興基本計画策定方針について事務局から説明をお願いします。																	
原田教育総務課長	(1) 説明																	
村上委員長	今の説明について、皆様から質問や意見があればお願いします。																	
田原委員	今後、委員会の検討の中に盛り込んでもらえると思うのですが、医学的に言いますと大脳の成人の重さの8割に3歳までに達するので、三つ子の魂100までという格言も科学的に証明されています。就学前を計画範囲としてやっていかないと小学校からでは遅いと考えます。グローバリゼーションを考えると適切なタイミングで正しい知識を提供することが必要となります。対象範囲を幼児教育の部分まで広げていただきたいと思います。																	
藏重委員	策定委員会の提言を受けて教育委員会で決定するとなっているが、毎回でなくとも教育委員が本委員会と一緒に出席してもらったほうが意見をわかつてもらいやすいのではないか。																	
中谷教育部長	基本的には教育委員会で最終的に決定するうえでは、この委員会の意見に加えて議員や他の団体の意見を頂くなどして、集約して最終的に決定していく手続きになります。																	
田原委員	今日の資料を見ますと、計画策定までのスピード感が足りないと考えます。																	
村上委員長	そのあたりは事務局も参考にして進めるようにしてください。																	

村上委員長	それでは議事の（2）現在の山口市教育振興基本計画の進捗状況について事務局から説明をお願いします。
石川教育総務課主幹	（2）説明
村上委員長	今の説明について、御質問、意見はありませんか。
田原委員	小学校の芝生化事業がありますが、すべての小学校に芝生化を進めることと理解してよいですか。
原田教育総務課長	名田島小学校と嘉川小学校でモデル事業として、地域の方に芝生の世話ををしていただいて進めています。芝生が青々としていて良いが、芝刈りなどの維持管理に地域の協力が必要なため、他の学校には進んでいない状況です。
田原委員	地域の人口が減っていくので、地域の負担が大きい事業は良くないので、人工芝などに変更して進めるほうが良いのではないか。こうしたものは見直していただいて10年後、20年後を見据えて取り組んでいただきたいと思います。
藏重委員	先生の職場、就業体験は現在でも実施されていますか。
江山学校教育課長	新任教頭の研修として5日間の日程で行っています。
藏重委員	コミュニティ・スクールにおいて、地域の人が入り一般的な常識が学校に入るようになっているのだから、もう止めてよいのではないか。その分生徒たちに向き合ってもらうほうが良いのではないかと思います。 一方で生徒たちの職場体験は良いことと考えます。
村上委員長	他にはありませんか。
藤川委員	現場の先生が読書ノートに懐疑的な話をされていたことがありました。子どもたちは、十分、読書をしているので、読まなければいけないと、感想を書かなければいけないと、子どもたちが思うようなことを制度化するのはいかがかなと思います。この読書ノートの導入の経緯はどういったものか、また、今後どのように進めていくのか、考えを聞かせてほしいと思います。
江山学校教育課長	日本一本をよむまちを推進しており、学校でも、しっかり読書しております。市全体として読書をしっかりやっていこうという思いの中で、図書館指導員も22名配置しており、教員や図書館指導員との話し合いの中で、子どもたちが取り組みやすい試みとして導入しました。押し付けにならないように各学校でも気を付けています。
中谷教育部長	一番最初は、図書館の銀行の通帳のように他市でやっているものを考えていました。本を自分たちで読んだものを残していくことが必要では

	ないかという議論の中で、記録よりは一度読んだものについて、再度考えられるようなものをということでノートという形になりましたが、手段であって目的ではないので、図書館サービス計画の中に盛り込んでいなければ良いと考えます。
田原委員	<p>今の質問に関連して、教育の意味は教育てるだが、大辞林で意味を調べると、好ましい方向に人を導いていくというものです。これは教える側の意味合いだが、教育には教えをうける人がいて、双方向のコミュニケーションをとるというのが理想です。日本では一方通行となっていて、小学校では京都の学校と、2年前にできた軽井沢のアイザックという高校以外は双方向の教育は育っていない状況です。</p> <p>今の読書ノートの反応は、人間の多様性が講じてくるから、10年先を見据えると多様性にどう調和させた教育をしていくかということだから、読書ノートを全員にやらせる必要はないのではないか。公平なのか、公正なのか切り替えながら、スピード感を持ってやっていく必要があると思います。</p>
村上委員長	他には何かありませんか。
田澤委員	<p>副読本についてですが、図書館に勤めていたときに、いつも子供たちの総合学習の相談を受けたときに、なかなか子どもたちへの良い副読本がなかった。自分が生まれ育った故郷について、きちんと知っていることが大事です。自分が生まれたまちが、どうだったか、どういう人がいたか、どういう文化があったか、ということをきちんと子どもの時から知っていることが大切です。</p> <p>副読本はいろいろ出されているが良いものが多く、大人の資料をかみくだいて提供していました。中原中也以外の今後の計画がありましたらお願いしたい。</p>
中谷教育部長	YCAMとの連携の中で何かできないか、考えていきたいという思いはあります。現時点では、新しいものはありません。
藏重委員	良成小学校では、「吉敷さんぽ」という本を地域でつくられており、文化とか人とか生活様式が網羅されていますが、これを活用しています。
村上委員長	大内にも歴史の冊子があると思います。
中谷教育部長	地域づくり協議会で、地域の歴史や伝統を地域住民に知つてもらう取り組みはなされています。うまく副読本として活用できているかは承知していないが、大殿地区もウォーキングをしながら史跡をめぐるというような取り組みもあります。
村上委員長	他にはよろしいでしょうか。
村上委員長	それでは議事の（3）計画の構成について事務局から説明をお願いします。

石川教育総務課主幹	(3) 説明
村上委員長	今の説明について、ご質問等はありますか。
小野委員	山口市を取り巻く環境と課題のところで、高度情報化やSNSの使用の弊害とあるが、これからの中学生たちは情報化社会抜けでは考えられない状況ですから、それを使用することは決して悪いことではないので、弊害という言葉を使わずに、むしろ情報モラルとか、正しい機器の取り扱いといった教育をしていかなければならないというスタンスに立って物事を考えることが必要です。それ自体が悪いものではないので害という表現を使わないほうが良いと思います。
村上委員長	もう少し肯定的な表現をということですか
小野委員	子どもたちが上手に使いこなせるようになるような表現にしていただきたいと考えます。
村上委員長	他にはいかがでしょうか。
田原委員	<p>これからの中学生時代ではもうメールでは遅いので、的確にスピードイーということでいえば、ショートメッセージサービスや、LINEのほうが能率的といわれています。</p> <p>そういう環境を肯定的にとらえていただくほうが良いと思います。</p> <p>少子高齢化についても、それぞれ「超」をつけて強調してほしいと思います。</p> <p>続いて、教育目標のやまぐちで育てるという表現について、育てるという意識が強いと、トップダウンになってしまふので、ここは、やまぐちで育つとしてはどうでしょうか。子どもたちの自立性を鑑みてというイメージになるのではと考えます。</p> <p>それから基本的方向性と施策のなかで、②安心・安全な教育環境を整えるのなかで、ここにもう一言、「快適な」といれていただきたい。中四国9県の中で公立の小中学校の冷房化率が香川県は90%あって、山口県は18%と下から2番目となっています。人口密集地の東京は80%を超えていて、夏休みを短くしようという方向にいっているのであれば、子どもたちの教室が猛暑では教育できない環境なので、しっかり整備していく必要があります。早急にやっていく必要があるので「快適な」といれてほしい。</p> <p>③について次代を担うとあるが、これは、よく言われる次世代のほうが語感が良いと思います。</p> <p>プロジェクト事業の3番のグローバル人材という言葉は市民権を得ているのだろうが。一般的にはグローバルに活躍できる人材を育成するではないか。和製英語を使用するより的確に子どもたちや市民に伝わるように書くほうが良いと思います。</p>
藏重委員	カタカナ語があるのが非常に気になります。シビックプライド、シテ

	<p>イセールス、アクティブシニアなど分かりにくい言葉があるが定着している言葉なのでしょうか。</p> <p>また、子どもは育つではなく、育てるのほうが私は良いと思います。我々大人が育てるのほうが理にかなっているように感じます。</p>
田原委員	<p>初めてのお子さんを授かったおかあさんに、あかちゃんは育っていますか、育てていますかと聞くと、ほぼ9割の人が育っているといいます。それが出産後1ヶ月くらい経つと育てているといわれます。子育てにはいろいろハードルがあるが、うまくいかなかつたときに、おかあさんが、自責の念にかられることがよくあります。</p> <p>育てるという意識が強すぎると、アウトカムがうまくいかなかつた時に、責任問題に発展するというような感情になると思います。子どもたちは地域が育むものであって、家庭ではないということを強調しなければいけないと思います。子どもが育つ環境整備をしなければならないという思いからです。</p>
中谷教育部長	<p>この目標は現行のものなので、今後、新しく議論したいと考えます。当時つくった思いとしては、やまぐちという社会が子どもたちを育てるというもので、社会システムをつくろうという思いを持って決めたものです。</p>
川久保委員	<p>教育をとりまく環境と課題の中で、教職員の働き方改革があるが、実際には、教育する側が問題で、経済同友会では、この10年くらい先生を1年間預かって指導しています。教頭になる先生やその前の段階の先生もいるが、結局、先生の社会性は誰がいつ教えているのかが問題になります。こういう働き方の中に、先生方に対する指導をどこかでやらないといけない。教育界だけの問題ではなくて、社会全体の問題に繋がります。これはプロジェクトの4番に入るのか、それとも、どこかに入るのか。それとも策定には関係ないということなのか。</p>
中谷教育部長	<p>基本的方向性①の学校、教員の質を高めるになると考えます。ただ労働問題もありますので、本計画で取り扱うのが良いのか議論の余地はあると思います。</p>
村上委員長	他にはよろしいですか。
藤井委員	<p>最近の就業構造も大きく変わってきてていると思います。母親がほとんど、働いています。一人っ子も増えてきています。今の子どもたちに対して結婚することの大切さを、結婚しないことも含めた選択肢はあるけれども、兄弟がないから命の大切さだったり、結婚することの良さを教えるのは、教育ではなくて福祉の分野になるのでしょうか。</p> <p>思春期子育て体験事業という中学生とあかちゃんがふれ合う事業があるが、家庭は良いものだな、赤ちゃんはかわいいな、私もいつか結婚したいなという気持ちをもたらすようなことが計画に入っていなかったので質問します。</p>

中谷教育部長	いわゆる社会教育に入ると思います。家庭教育においても婚姻などについて関わるもの、多様な選択肢があるなかで、社会としてどう取り組むか考えていく必要あると思います。また、山口市では地方創生の関係で婚活事業を実施しています。言われるように人生をどう歩んでいくかは社会教育となります。大きなテーマと認識しています。
村上委員長	他市では子育て課というのを立ち上げた事例もあります。学校教育の中でも、やり方によっては可能かなとも考えます。
藤川委員	学校での教育が、私たちが子どものころと比べてパッケージ化されていると感じます。例えば、家庭科でエプロンなど作るときに、私たちのときは布を買いにいくところからやっていました。今は学校で番号を選んで、さらに布に山折谷折とか縫う順番が書かれていて、縫い物の楽しさを身につけられる子どもがどれほどいるのか疑問に思います。
田原委員	誰が子どもたちを見るかとなると、地域、地域力がキーワードだと思います。人間は古来、DNAの中にみんなで育てるというものをもっています。お母さんだけが育てるのではなく地域で育てることを再認識する意味で地域力の表現は良いと思います。それが、子育て課というような表現になると育てるという責任感をにおわせる言葉なので、やわらかいタッチでやっていただくほうが解決の方向に向くのではないかと考えます。
村上委員長	以上が議事になりますて、会議の終了予定時刻まで時間がありますので、全体を通して構いません。皆さんからのご意見があればいただきたいと思います。
川野副委員長	今後の議論の進展の仕方ですが、目標と計画構成の個々について計画内容と合わせて議論をどのようにしていくのでしょうか。
原田教育総務課長	今後の進め方ですが、第2回、第3回で内容を検討していくますが、第2回は基本的方向性の1、2について、第3回は基本的方向性の3、4について、事務局から資料を示して、意見をいただいて、それを事務局で整理してから目標等を決めていきたいと考えています。第4回は素案を示していきたいと思います。
村上委員長	教育目標自体も決めていくということになりますか。
原田教育総務課長	教育目標についても意見をいただく中で、また案を示していきたいと思います。
田原委員	資料の中で山口市総合計画の素案についてはファジーな記載となっているが、これは10年で何をディスカッションしていくのかというと、3つなのか8つなのか、例をあげて内容をしぼってゴールを定めて、それに対する戦略を定めて、それを毎年評価して軌道修正していくことをしないと、概念論だけだといつまでたっても完成形はでてこないと思います。

	交流人口は増えるとあるが憶測の世界なので、これをやるなら、来年の明治維新150年にあたり、外から見学に来た人を案内する準備など書かないといけない。はっきりした戦略を書く必要があります。
中谷教育部長	補足説明ですが、総合計画は、基本構想、基本計画、実行計画の3つで総合計画としています。基本構想部分には山口が目指す基本目標や理念を記載しています。前期基本計画は5年で1センチくらい、実行計画は3年で5センチくらいの厚さの冊子になって指標が載っています。これを市民にどう分かりやすく示していくかということが課題となっています。膨大な資料を見ていただくと理解いただけるのですが、言われたように明確に示していくことが課題となっています。
田原委員	アウトカムが明示していないのはいくら文字が書いてあっても機能しない。機能するものは案外数ページのものになります。厚さが厚い、薄いではなく、うまくまとめていただきたいと思います。指標も客観性を持ってほしい。
中谷教育部長	教育、文化はクオリティが数値化しにくいところがあります。山口市も成果を数値化して12、3年経つが客観性については限界があることも議論している状況です。
中村委員	学校評価でアンケートがあるが、5段階評価だが、よっぽどのことが無ければ「3」を書くことになります。絶対的な数字は出てこない。いろいろなものに対して数値化をしていくことは難しいと思います。
田原委員	もっと、いろいろな方法で数値化しないといけないと思っています。
川久保委員	結局、今の構成は前回同様だが、基本的方向性の中で未来を切り開く学びとは何を指しているのか、また、誰もが教育を受けやすくするとあるが、山口市に教育を受けられない方がどれくらいいるかとか、具体的なデータを出して、根拠を示してほしいと考えます。
藏重委員	少人数教育の充実ということについて、今後も進んでいくのか。現在は35入学級ですが、このまま20人とか進むのか。少子化も進むので子どもは減ってくる、社会の中で揉まれるのが大切なので、ある程度、歯止めが必要だと考えます。 先生方の呼び方は、教員か教師か。教員だと調整役、コーディネーターの意味も出てくると思う。私は教師が正しいと思います。
中谷教育部長	教職員に求める仕事のイメージでいえば、教師であるということは良く分かります。我々が使うのは法律用語としてのものです。 教師像というのは、時代の変化の中でかわっていくとも考えられます。
藏重委員	しっかりプライドを持ってやっていただきたいと思います。
ウィルソン委員	グローバルの英語教育、年々ALTの訪問日数が減っています。これは良くないと思う。スカウトジャンボリーのこと也有って一時多かったと思うが、スカウトジャンボリーは入り口なので、イベントが終わった

	<p>からといって減らしてはいけないと思います。これから、小学校3、4年生の英語教育が始まるので、これからますます小学校へのALT派遣が大事だと思います。</p> <p>計画の範囲の義務教育、家庭教育のところで、規範の必要性、自己肯定感の必要性がなにより大切で、一番重要なことと考えます。現在の計画の中で自由とか夢とかというような表現で表されているが、もっと、そのままの言葉で計画に書いてほしいと思います。もっと、自分が好きという言葉を前に出してほしいと思います。</p> <p>先ほど、話のあった、縫い物でも行程が決まっていて、自分で考える余裕がないというのが問題。もっといれていただきたいのは、キーワードとしては失敗と自由です。自分が好きになるためには、自信を持たなければいけない。自信を持つためには、失敗して自分で考えてこういうふうにしよう、でもうまくいかない、ではこういうふうにしようとか、実際やってみて失敗して自分で考える余裕や自由時間が必要です。</p> <p>最近、モンテッソーリ教育が話題になっています。これの大事などころは自分の好きなことを好きなときに、好きな時間するということで、すごく成功している人がいます。私のいともその一人。10歳くらいまで字が読めなかった。周りは心配していたが結果として、その子はハーバード大学で教壇に立っています。今のぎゅうぎゅう詰めのカリキュラムの中でも、好きなことに集中できる時間があると良いと思います。</p> <p>また、大殿小学校に放課後のクラブに行っているが、1年間で10回程度しかなく、また、期間も集中して実施してその後は2、3ヶ月後というようになってしまるために、なかなか物を作っていくことができない状況です。</p> <p>授業中が難しければ、放課後に地域の力を借りて、子どもたちが自由に出来る時間を作れることが大事だと思います。</p> <p>また、失敗と自由は親にも必要です。今の親世代は共働き世代で、祖父母と同居もしていないので、どうやって育てたらよいか分からぬ人もいます。親も失敗しても良い、あんまりプレッシャーにならない参考になる情報が必要です。子育てだけでなく親育てができるシステム作りが必要です。現在の相談場所には、うまく子育てが出来ている人がいっています。そうでない人は自信がないからそういったところにもいけない。相談と失敗が親も子もできるような計画になればよいと思います。</p>
川野副委員長	<p>今後の議論のあり方ですが、耐震化などは誰も反対しないので、数値化される部分は皆さん賛成されると思います。数値化が難しい部分が問題となるが、無理して数値化しなくても、例えば先生方など、現場で携わっている方が、これまでの授業で感じられた良い点、問題点などについての意見を出してもらえば議論ができると思います。</p> <p>このプロジェクトには、こういう賛成意見もあるけど、こういう課題</p>

	<p>も指摘されているというのがあると良いと思います。</p> <p>ここが議論になると、現場から聞いて出してもらうほうが議論しやすいと思います。</p>
村上委員長	今の点は次回までに対応できますか。
原田教育総務課長	次回の会議までに議論しやすいように用意したいと思います。
岡本委員	<p>郷土愛を育むとあるが、今の子ども達には郷土愛というのを進めないといけないのではないか。各地域の自分のところを知るというのが、自信を持って、自分のところはここが良いよといえる。小学校、中学校のうちに、郷土に自信を持って、誇りを持っているところまでもっていくことが大切と思います。</p> <p>小さいときから、郷土読本などを使って、地域の偉人や文化を知ってもらって自信を持つてもらえるような教育が必要だと思います。</p>
砂井委員	山口の教育目標にやまぐちで育てるあるが、今、山口市は21地域があります。子どもも地域で育つ。地域は自治会が集まってできています。自治会の力、自治会がより活性化して地域の力を持てば、地域の力で子どもを育てる環境にもなります。地域の力が不十分になっているので、自治会長さん方にも頑張っていただきたい地域が力につけることが必要です。
村上委員長	そろそろ時間となりましたので、事務局に進行をお返します。
原田教育総務課長	<p>次第の6のその他でございます。</p> <p>本日、質問意見連絡票を配布しておりますので、何かありましたら一週間程度を目途にいただきたいと思います。</p>
中谷教育部長	<p>お願いで申し訳ないのですが、今日の議論にあった自己肯定感について重要とは認識していますが、日本においては苦手としているところだと思います。なかなか本計画の中でもうまく表現できていない状況です。</p> <p>何かこれについて良い事例等がありましたら、御教示いただきたいと考えております。</p> <p>また、3歳児までの教育のアウトカムについて、市として事業に取り組めていない状況です。1歳から3歳までの教育の取組の事例があれば、社会教育、家庭教育支援になると思いますが、御教示いただきたいと思います。</p>
原田教育総務課長	次回の会議は8月下旬で調整したいと考えております。



第1回策定委員会終了後の意見

【藤川委員】

1 読書ノートの配布・活用より、まず、各校に専任の学校司書を設置すべき。

(事務局説明)

山口県の学校司書を配置している学校数の割合は52.7%となっており、中国地方では第4位の状況です。

本市におきましては、学校司書を配置している割合は100%ですが、23人の学校司書が小中学校50校を兼任している状況です。

2 タブレット端末の充実よりも、もっとIT教育を。

高校の情報の授業でキーボードすらまともに扱えない生徒が多い。大学や社会で困る。

(事務局説明)

新学習指導要領では、小学校段階で身につけさせたい情報活用の実践能力として、コンピュータやマウス、キーボードなど入力デバイス操作などの基本的操作能力となっており、中学校及び高等学校においても段階的に身につけさせたい情報活用の能力が具体的に記載されています。

本市におきましては、全小中学校的パソコン教室にマウスやキーボードなどの入力デバイスを備えたノートパソコンを常時配置しており、情報教育支援員を派遣しながら基本的操作の学習を行っています。

また、タブレット端末等の機器も、パソコン教室のノートパソコンと共に、それぞれの機器が持っている長所を生かしながら、調べ学習などで児童・生徒がICT機器により多く触れ、情報活用能力を育む機会を充実させていきたいと考えております。

3 小学校教員は、採用時、英語は必須ではないが、今後の英語教育については誰が担うのか。

(事務局説明)

新学習指導要領により、小学校5、6年生の英語が教科化され、小学校3、4年生では外国語活動が新たに導入されます。

この英語の授業につきましては、教員が担うことになりますので、本市におきましては、研修の充実や外国語指導助手の増員など、授業の実施に向けて体制の整備を進めていきたいと考えております。

